

ひと・ネットワーク 131

「かながわ高齢者文化祭で
お会いしましょう」

神奈川県健康生きがいきづくり
アドバイザー協議会
事務局長 目島公男



「神奈川県健康生きがいきづくりアドバイザー協議会」(略称：神奈川県健生)は、来年5月で設立から10年目を迎えます。

「健康生きがいきづくりアドバイザー」は、厚生労働省所管の「(財)健康・生きがい開発財団」の認定資格を取得した、中高年齢者の健康と生きがいきづくりを企業内や地域で支援する専門家です。神奈川県健生は、県下165名のアドバイザーが参加しているボランティア団体で、高齢化社会における中高年齢者の健康と生きがいきづくりを支援する様々な事業及び活動を行う事を目的とし、併せて、会員相互の資質の向上、情報交換、親睦のための活動を行っています。会員は、男性8割、女性が2割で、年齢構成は30歳代から80歳代までと幅広く分布しており、神奈川県を9地区に分けて活動しております。

特筆する活動の一つに「かながわ健生クラブ」があります。このクラブは県民を対象に、健康生きがいきづくりのための余暇活動を定期的に行い、地域の仲間づくりを推進することを目的とした活動で、平成11年4月からスタートしました。5年目を迎えた現在では、会員200余名を抱えたクラブに発展して、毎月、史跡や名所をめぐり、四季の自然や風物を楽しみ、歴史や文化に触れながら、中高年齢者の健康と生きがいきづくりの支援を行っています。

「かながわ高齢者文化祭」には、第12回から連続して参加しており、皆様のお役に立つよう努力してきました。第15回目となる今年の文化祭(9月27～28日、会場：県社会福祉会館)には、「ライフプラン個別相談コーナー」を設けることにしました。「家庭経済」と「生きがい」の2分野について多彩な資格を持ち、日頃から相談・助言を行なっている専門家を集めて、皆様の相談をお受けしたいと準備しております。是非、皆様お出かけください。

お問合せ・申込み：FAX 045-823-7382
e-mail: mejisann@k6.dion.ne.jp

人生を豊かに彩る

色は場の空気を作るとともに、効果的な組み合わせにより、そこに集う方々の生活にリズム感をもたらします」と話します。

このほか協会では、色彩による心のケアを広げていくことを目的とした「色彩ピアカウンセラー」の養成(※)や研修会、セミナー等の開催、色彩調査の実施などを通じ、一人でも多くの方に色彩の魅力とその大切さを知ってもらおうと活動しています。

「多くの方は、高齢者をイメージする色と言われると、濃い茶色や緑色など、比較的暗くて渋い色を選ばれます。反面、『自分の高齢

期を色で表現するならどんな色ですか?』という問いには、女性は柔らかな感じのピンクや赤、黄、男性は爽やかな緑や黄緑など、暖かみや優しさを感じさせる色を選ばれる。これは、少しでも明るく楽しい高齢期を迎えたいという願望の表れだと感じます。高齢化社会を迎え、精神面での快適性が重視されようとしている今、色は生活に彩りを与える大切な役割を担っていくと思っています」と結んでくださいました。

◆色彩NPO日本カラーネットワーク協会

TEL 03-3406-9185

URL <http://www.npo-jana.or.jp/>

※第六期講座案内は本紙九面参照

4月の視点



色を持つ不思議な魅力と、その力について勉強させていただいた今回の取材。

しかしながら、色を効果的に活用しようと、施設の構造や配置にまで手を加えることは難しいのが現状です。では、既存の状況を生かして色をどう配していけばいいのか。その問いにヨシタさんは、「利用者の視線にあわせた色の配置と、効果的にテーマカラーを用いること」と助言してくださいました。

例えば高齢者であれば、特に視線が集中する床を、テーマカラーと対照となる色を上手に組み合わせ、メリハリを持たせることができ

る。また、識別しやすい色を用いた誘導線や生活空間の中で違和感の持たれることのない色とデザイン誘導サインを考えることで、高齢者自身の可能性を引き出すきっかけを作る。さらに、眠る・食べるなど、生活空間に合わせた照明の色や明るさを考えてみるなど、一考ではないかとのお話でした。

「病院のイメージカラーは?」
と言うと、多くの方々は「白」と答えます。では「福祉は?」と問うと、ピンクや黄緑など人によって答えは様々。それだけに利用者の心を彩る色をどう配していくかが、今後の福祉事業を豊かにする鍵になるのかもしれない。

(企画課)